

エコアクション21

# 環境活動レポート

58期

令和1年10月～令和2年9月

令和2年12月1日

株式会社 伊藤組

代表取締役 伊藤智仁

# 目次

- 1 環境方針
- 2 事業概要・認証登録範囲
- 3 実施体制
- 4 環境目標
- 5 環境活動計画（58期）
- 6 環境活動計画の取組結果とその評価
- 7 58期以降の環境目標と環境活動計画
- 8 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価  
並びに違反、訴訟の有無
- 9 代表者による全体の評価と見直し・指示
- 10 その他
  - 産業廃棄物処理組織概要
  - 産業廃棄物処理 組織図
  - 情報公開ウェブサイト概要

# 1 環境方針

(株)伊藤組は、建設構造物の施工・廃棄物処分事業を通じて、地球温暖化の防止、限られた地球資源の有効活用を図る。環境・品質・安心を企業責任の優先課題として、品質・環境経営マネージメントに社員一丸となり取り組むことを誓約する。

又、地域社会の環境保全活動に参加するとともに、自社活動の一端が所属業界の標準となれるよう行動する。

## 環境行動指針

弊社は岩手県地域を主とした建設事業を行っています。この事業活動における環境への影響を理解し、環境経営を一つの課題と位置づけて、従業員と協力し、EA21環境経営システムを構築運用し、継続的改善と汚染の予防に努め、以下の事項について自主的、積極的に取り組みます。

1. 環境関連法規等を遵守します。
2. 弊社は、次の環境活動を計画的に取り組み実施します。
  - 車両運転を改善し燃料の削減をします。
  - 照明・冷暖房・工事施工・産廃中間処理工程の節電に努めます。
  - 建設リサイクルを推進し、廃棄物を削減します。
  - 水資源使用の削減および排水の汚染、汚濁の防止を図ります。
  - 施工で使用する材料に含む化学物質を適切管理します。
  - 環境に配慮した施工を推進します。
  - 地域との連携をとり地域の環境保全活動に参加します。
3. この環境方針は全従業員に周知、徹底します。

平成30年11月1日

株式会社 伊藤組

代表取締役 伊藤 智仁

## 2 事業概要

### (1) 事業者名及び代表者名

株式会社 伊藤組  
代表取締役 伊藤智仁

### (2) 所在地

- ・本社 岩手県花巻市山の神 797 番地 1  
電話 0198-24-1193 FAX 0198-24-9798
- ・機材センター及び二枚橋中間処理場  
岩手県花巻市二枚橋 5 地割 473 番 3、14、15
- ・幸田最終処分場 岩手県花巻市幸田第 8 地割 407 番 1
- ・滝沢中間処理場 岩手県滝沢市字後 268 番 585、268 番 1078
- ・盛岡支店 岩手県盛岡市清水町 1 番 34 号
- ・北上営業所 岩手県北上市鬼柳町都鳥 232 番地 1
- ・山の神給油所 岩手県花巻市山の神 812

### (3) 環境管理責任者名及び連絡先

環境経営責任者：代表取締役 常務 伊藤 拓帆  
連絡先：所在地本社と同様

### (4) 事業内容

1. 土木、建築の設計及び請負
2. アスファルト合材の販売
3. 産業廃棄物の処理
4. 石油製品の販売
5. 不動産売買、仲介及び斡旋
6. 不動産の賃貸
7. 地盤及び骨材の調査、試験、計測及び解析
8. 太陽光発電事業
9. 前各号に付帯する一切の事業

### (5) 認証登録範囲

全社、全事業活動、全従業員を対象とする。

(ただし共同事業体、関連企業への出向者は除く)

別紙：E A 2 1 認証登録範囲【株式会社伊藤組 組織図】

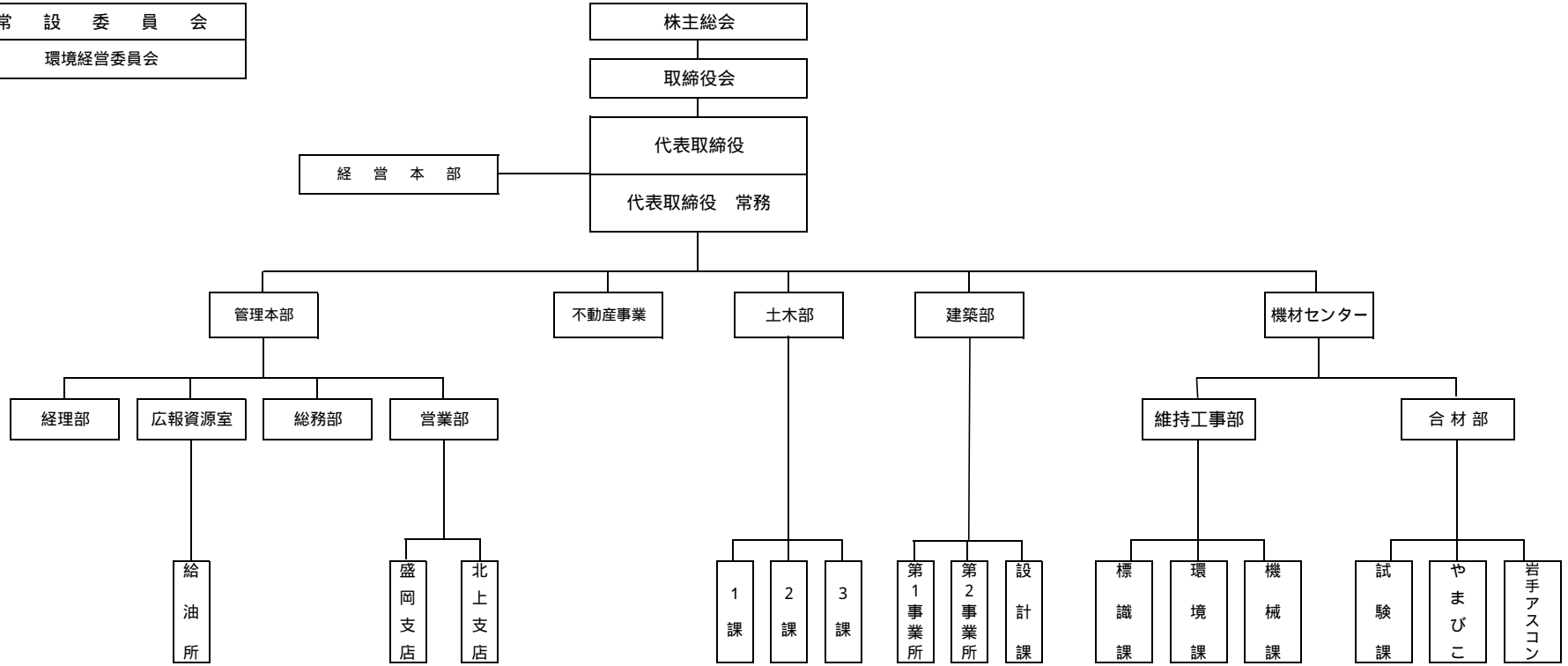
### (6) 事業規模

	単位	第56期	第57期	第58期
売上高	百万円	4,540	5,270	3,797
従業員(正社員)	人	122(122)	124(124)	124(124)
敷地面積	m <sup>2</sup>	71,357		
最終処分場面積	m <sup>2</sup>	22,562		
埋立容量	m <sup>3</sup>	77,200 (R2.3月末残容量：20,681.5m <sup>3</sup> )		

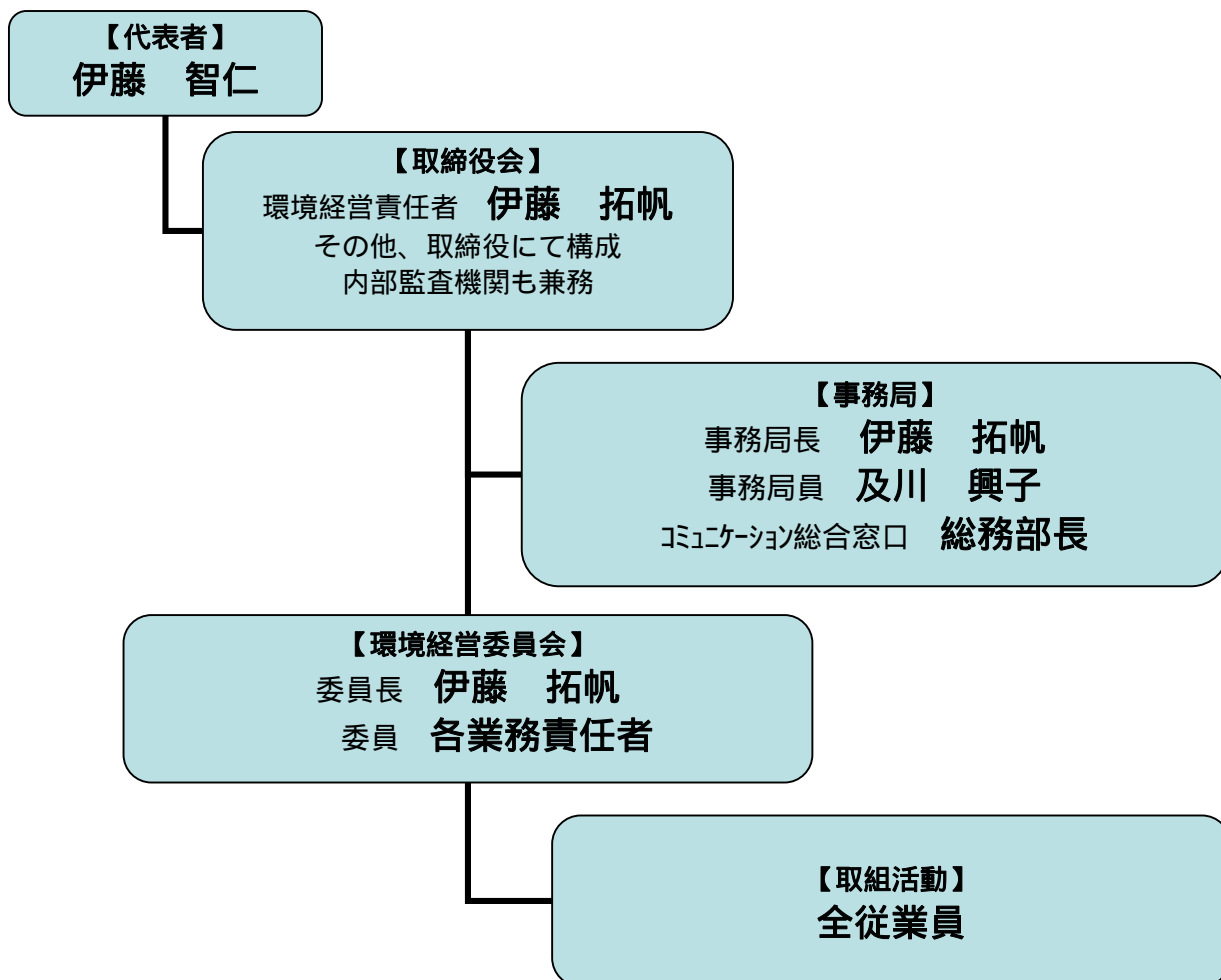
### (7) 事業年度 10月～9月

EA21認証登録範囲 【株式会社伊藤組 組織図】

常設委員会  
環境経営委員会



### 3 実施体制



## 役割と責任・権限

役割	担当者	責任・権限
代表者	伊藤智仁	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境管理責任者を任命する。</li> <li>● 環境管理責任者からの報告を受け全体の見直しを行う。</li> <li>● 取組に対する資源を用意する。</li> <li>● 方針を決定する。</li> </ul>
環境管理責任者	伊藤拓帆	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 代表者に代わってシステムを構築し運用する。</li> <li>● 代表者に結果を報告する。</li> </ul>
取締役会	各取締役	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 取締役会を内部監査の組織とする。</li> </ul>
環境経営委員会	委員長 伊藤拓帆 委員 各業務責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各業務に適した環境目標、計画を作成する。</li> <li>● EA21 目標に対する取組を推進し、チェックし、環境管理責任者の了承の下必要な是正処置・改善を行なう。</li> </ul>
事務局	事務局長 伊藤拓帆 事務局員 及川興子	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動の取り纏めを行う。</li> </ul>
コミュニケーション窓口	総務部長	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域住民、関連機関からの苦情等の窓口業務を行う。</li> <li>● 苦情への対策・予防処置策定を行い、代表者の承認を受け関係者に実施を指示し、経過・結果の報告を受け改善・定着を図る。</li> </ul>
取組活動	全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各業務責任者の下、各部目標達成に向け環境活動を推進する。</li> </ul>

## 4 環境目標

### (1) 短期及び中期数値目標

項目	単位	基準値	56期目標	57期目標	58期目標
二酸化炭素排出量	kg-CO <sup>2</sup>	950,922	941,412	931,903	922,394
電気使用量	MJ	2,651,417	2,624,902	2,598,388	2,571,874
燃料使用量	MJ	11,342,470	11,229,045	11,115,621	11,002,195
紙使用量	t	1.72	1.70	1.68	1.66
水使用量	m <sup>3</sup>	1,552	1,536	1,520	1,505
廃棄物排出量	t	13,192	13,060	12,928	12,796

56期～58期は過去3期の平均値を基準値とし、年次1%を削減目標とする。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.556kg-CO<sub>2</sub>/Kwhを使用する。

「SDSによる化学物質の適正管理（標識課・環境課）」、「材料の適正管理により建設廃棄物をゼロにする（環境課）」等の数値管理できない取組みに関しては、環境活動計画及びエコアクション21状況確認票にて目標管理する。



## 5 環境活動計画（58期）

具体的な取組み内容に関してはエコアクション21状況確認票に記載する。

1. 環境関連法規の遵守に関して
  - 法令点検（日週月）の徹底により火災や油流出等の環境災害を未然防止する（給油所）
2. 重点的な環境活動について
  - (ア) 燃料使用量の削減
  - (イ) 電気使用量の削減
    - 施設の節電活動（給油所）
    - 中間処理場コンクリート破砕機における電気効率の高い稼働（合材部）
  - (ウ) 廃棄物発生の抑制
    - 決済のデジタル化による作業効率の向上とペーパーレス化（総務部、営業部）
    - 合材ロス率削減（土木部）
  - (エ) 水使用量の削減
    - 節水装置の有効活用による水の削減（総務部、営業部、全社）
  - (オ) 化学物質の削減・管理
    - SDSによる化学物質の適正管理（合材部・標識課）
    - 環境関連法規に基づいた除草剤（化学物質）の適正管理と使用（不動産事業）
    - 材料の適正管理により建設廃棄物をゼロにする（環境課）
  - (カ) 環境に配慮した施工の推進
    - 建設残土の有効活用（不動産事業部）
    - アスファルトフィニッシャのアイドル時間を1日当たり0.5h減らし、CO<sub>2</sub>削減に努める（機械課）
    - 作業後の清掃作業の徹底（環境課）
    - 気配りチェックシートを活用した施工不良の撲滅（土木部）
    - 省エネ施工の推進（建築部）
  - (キ) 地域環境への貢献
    - 廃品回収等におけるトラックの貸し出し（建築部）
    - インターシップの受入れ（総務部）
3. 環境方針の全従業員への周知、徹底

## 6 環境活動計画の取組結果とその評価

(1) 58期(令和1年10月~令和2年9月)の取組結果

項目	単位	58期目標値	58期実績値	達成の可否
二酸化炭素排出量	kg-CO2	922,394	741,404	○
電気使用量	MJ	2,571,874	2,752,754	×
燃料使用量	MJ	11,002,195	7,194,820	○
紙使用量	t	1.66	1.29	○
水使用量	m <sup>2</sup>	1,505	2,180	×
廃棄物排出量	t	12,796	10,464	○
地域環境貢献	-	-	-	○

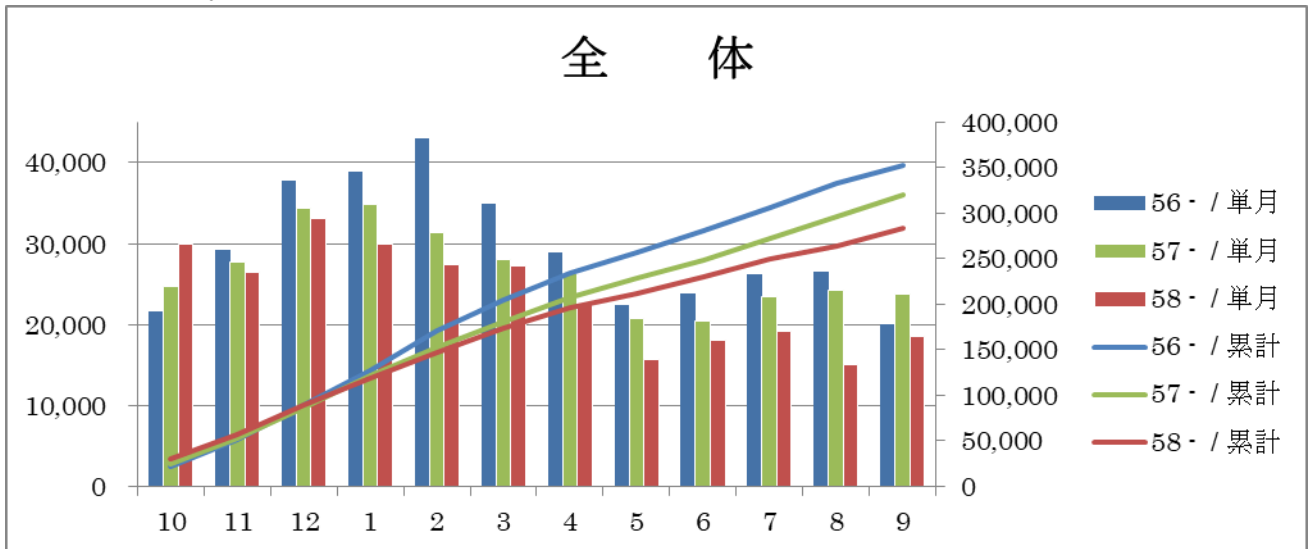
購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.556kg - CO<sub>2</sub> / Kwh を使用する。

数値管理できない取組みについては、環境活動計画及びエコアクション21状況確認票にて目標管理する。

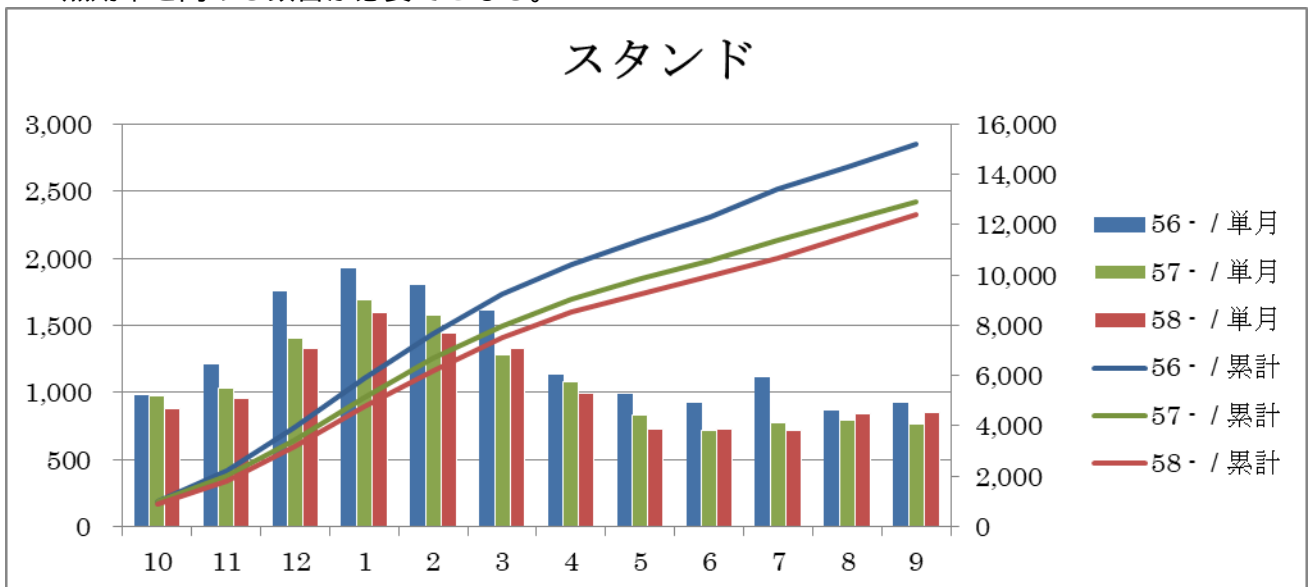
( 2 ) 取組評価

- 電気使用量削減（達成の可否：×）

全体目標は達成できなかったものの、業務のアウトソースなどにより残業時間が減ったことで全体の電気使用量が削減できたと考えられる。また今後は、今年度から実施している再生可能エネルギーの取り組みにより、CO2 排出は限りなくゼロになる見込みである。おおよそ2030年には、以下の消費電力がほぼCO2フリーの再生可能エネルギーで補うことが可能となる。

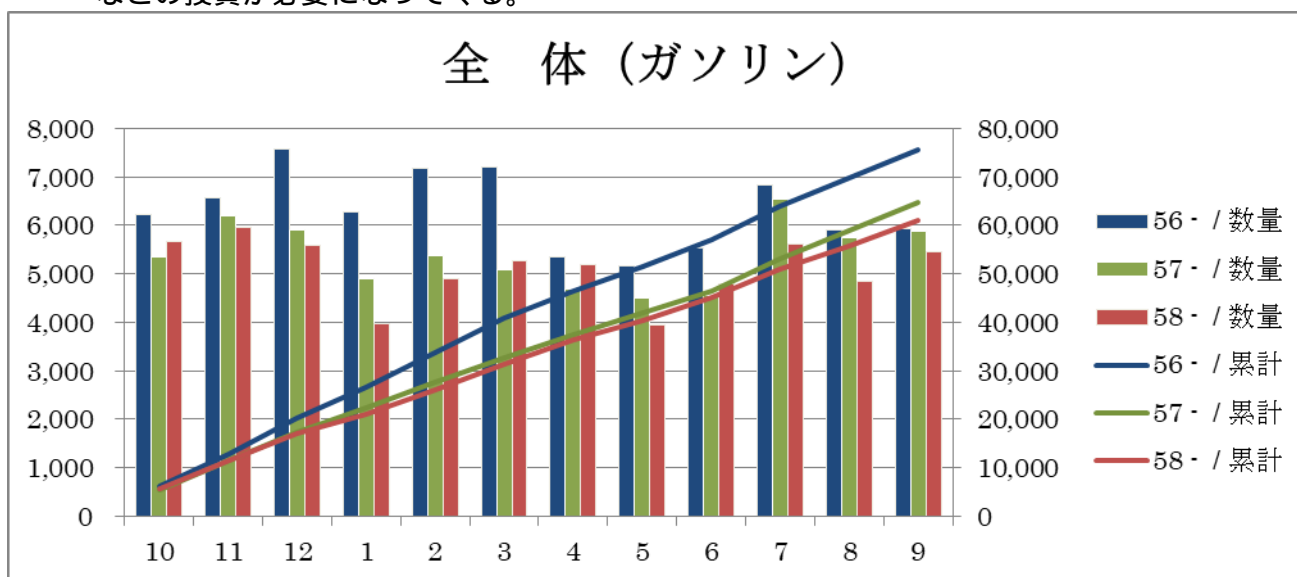


年間通して給油所の照明の節電を実施した。その効果もあり、前年対比で約4%、全前年対比で約19%の節電効果があった。しかし今後の課題として、事務所内の熱効率が悪いため、熱効率を高める改善が必要でとなる。

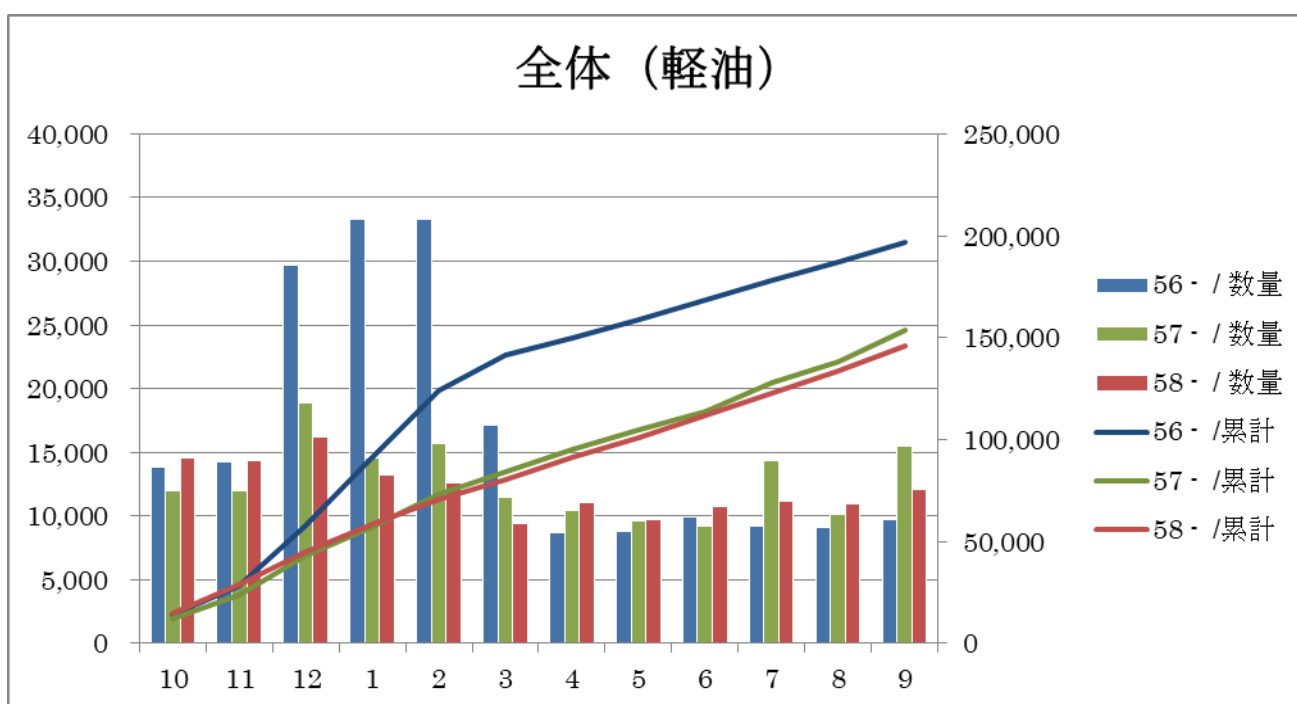


- 燃料使用量削減（達成の可否：○）

ガソリンの使用量は過去3年間で最も少なかったものの、車両の増減や現場までの距離など外部環境が大きく影響してしまうため、対策が難しい。今後は、抜本的な策としてEV車などの投資が必要になってくる。



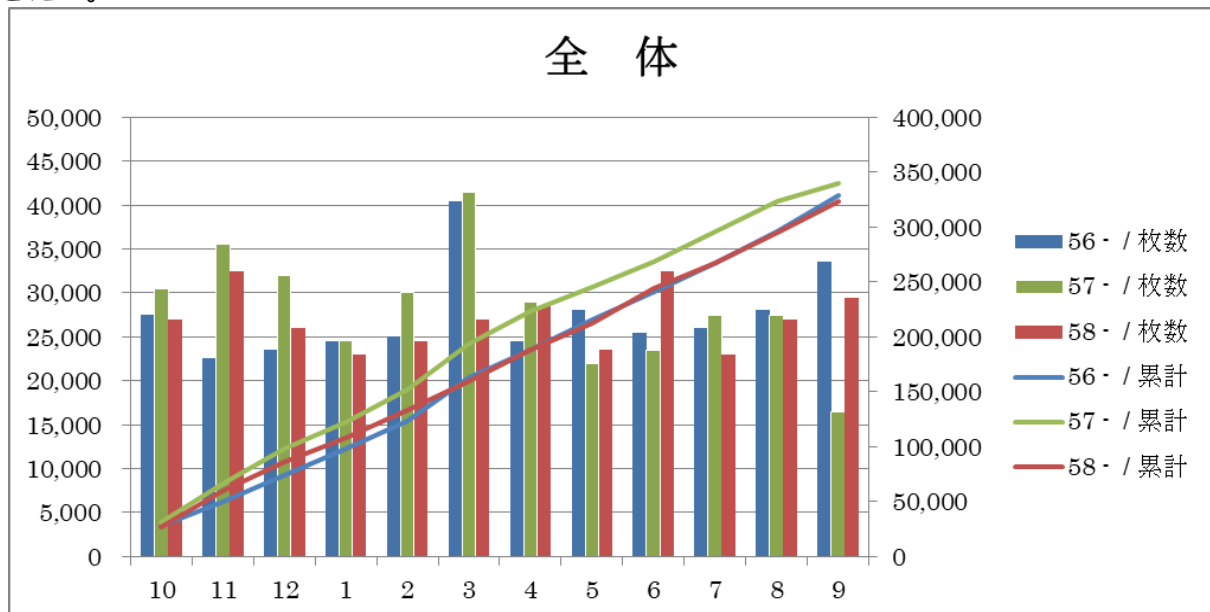
アスファルトフィニッシャのアイドリングの無駄に着目し、1日当たりのアイドリング時間を30分削減する取り組みを行っている。アスファルトフィニッシャ3台の年間稼働時間が1,536時間あり、その内、約93.5時間アイドリングを削減した。年間稼働時間の約6%が削減できたことになる。EV車やハイブリット重機など抜本的な対策ではないが、このような取り組みも大切である。



● 紙使用量削減（達成の可否：○）

今年度は、デジタル決済システムの普及により、500枚ほどコピー用紙削減につながった。その他、コロナ対策によるZOOM会議や電子データでのやり取りが盛んに行われた。また、プロジェクターやモニターの活用、裏紙の有効活用など行っている。これらの対策により、対策前と比較するとトータルで5～10万枚ほどコピー用紙削減が出来ている。しかし、現在の取組みだけでは年間30万枚が限界であると考えている。大幅な削減のためには抜本的な改革が必要である。

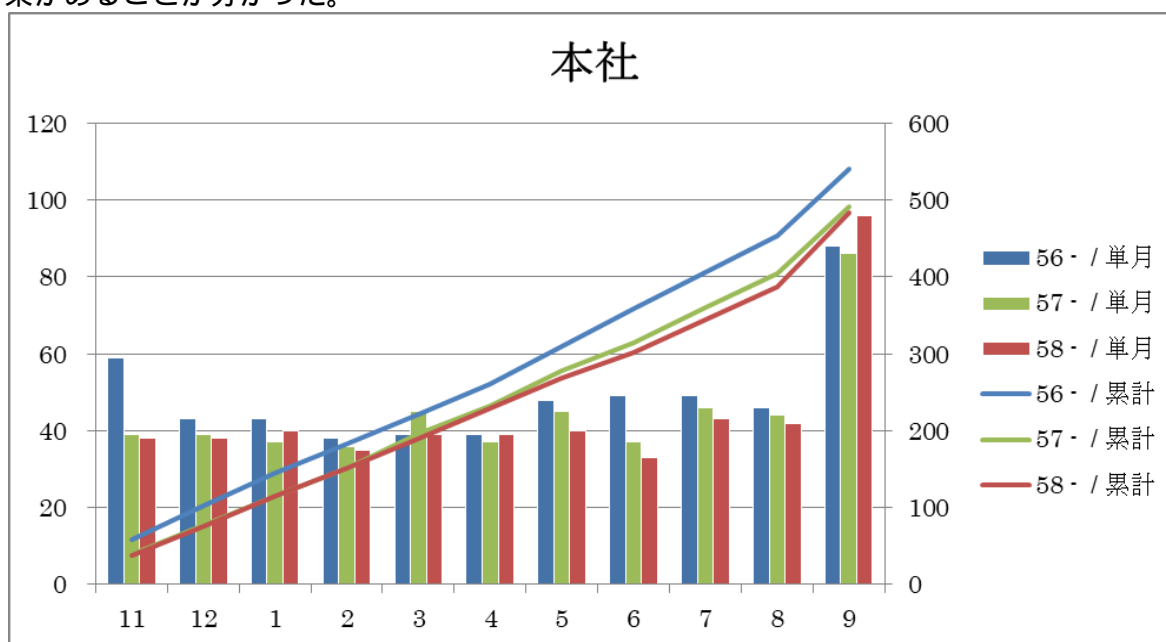
今後はデジタル技術を積極的に活用し、ペーパーレス化と業務の効率化を同時に達成していきたい。



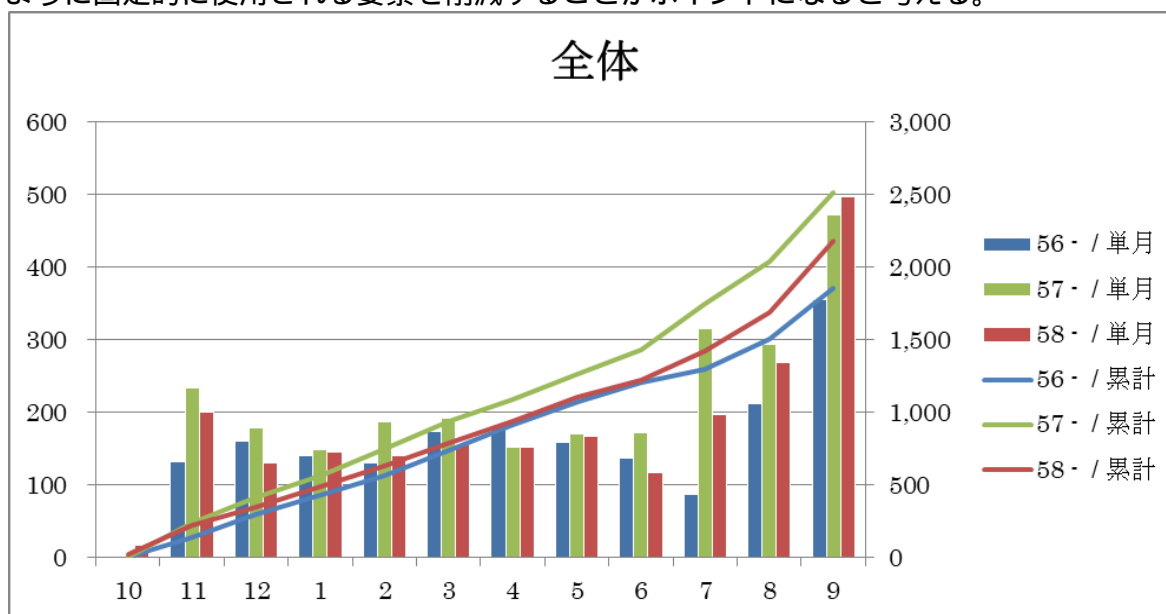
- 水使用量削減（達成の可否：×）

全体目標は達成できなかったが、実施した内容の効果を確認することができた。具体的には、対象をトイレの水に絞ることで水削減に努めた。分析の結果、全体の水使用量の約2割が本社で使用されていることが判明した。また、その中でもトイレに使用される水が半分以上占めていることが分かり、全水使用量の5～10%の節水効果があるのではないかと仮説を立てた。

1年間トイレの節水を実施した結果、前年対比で約2%、前々年対比で約10%の節水効果があることが分かった。



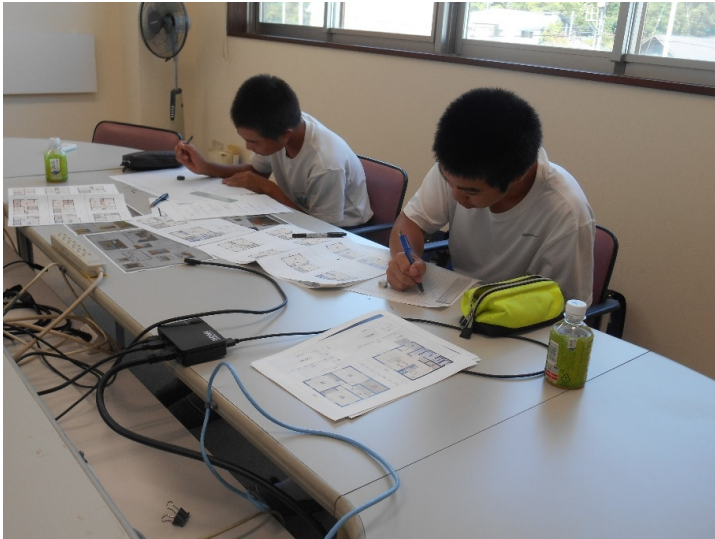
また全体の水使用量に関しては、現場で使用される水が増加したため、目標をオーバーしてしまいましたが、次回以降の対策として、変動的な要素の削減に努めるよりも、トイレの水のように固定的に使用される要素を削減することがポイントになると考える。



- 地域環境貢献（達成の可否：○）

職場体験（令和2年9月9～10日）

毎年、地元の中中学生を対象に建設業の魅力を知ってもらう機会として職場体験を実施している。



- 地域環境貢献（達成の可否：○）

廃品回収等におけるトラックの貸し出し

地域環境貢献の一環として、自社所有のトラックを貸出している。



西一区子供会資源回収

## 7 5 8 期以降の環境目標と環境活動計画

項目	単位	基準値	59期目標	60期目標	61期目標
二酸化炭素排出削減	kg-CO <sup>2</sup>	867,533	858,858	850,183	841,507
電気使用量削減	MJ	2,863,967	2,835,327	2,806,687	2,778,048
燃料使用量削減	MJ	9,911,344	9,812,231	9,713,117	9,614,004
紙使用量削減	t	1.39	1.37	1.36	1.35
水使用量削減	m <sup>3</sup>	2,022	2,002	1,982	1,961
廃棄物削減	t	13,690	13,553	13,416	13,279

過去5期の平均値を基準値とし、年次1%を削減目標とする

購入電力の二酸化炭素排出係数は、0.556kg-CO<sub>2</sub>/Kwhを使用する

数値目標ではない「SDSによる化学物質の適正管理(標識課・環境課)」、「材料の適正管理(環境課)」等の取組目標に関しては、環境活動計画及びエコアクション2.1状況確認票にて目標管理する。



# 環境活動計画（59期）

具体的な取り組み内容に関してはエコアクション21状況確認票に記載する。

1. 環境関連法規の遵守に関して
  - 法令点検（日週月）の徹底により火災や油流出等の環境災害を未然防止する（給油所）
2. 重点的な環境活動について
  - (ア) 燃料使用量の削減
    - アスファルトフィニッシャのアイドリング時間を1日当たり0.5h減らし、CO2削減に努める（機械課）
  - (イ) 電気使用量の削減
    - 施設の節電活動（給油所）
    - 中間処理場コンクリート破砕機における電気効率の高い稼働（合材部）
  - (ウ) 廃棄物発生の抑制
    - 決済のデジタル化による作業効率の向上とペーパーレス化（総務部、営業部）
    - 合材ロス率削減（土木部・機械課）
  - (エ) 水使用量の削減
  - (オ) 化学物質の削減・管理
    - SDSを用いた化学物質の教育（標識課）
    - 化学物質の適正保管管理（標識課）
    - 環境関連法規に基づいた除草剤（化学物質）の適正管理と使用（不動産事業）
    - 材料の適正管理により建設廃棄物をゼロにする（環境課）
  - (カ) 環境に配慮した施工の推進
    - 建設残土の有効活用（不動産事業部）
    - アスファルトフィニッシャのアイドリング時間を1日当たり0.5h減らし、CO2削減に努める（機械課）
    - 作業後の清掃作業の徹底（環境課）
    - 手戻り、手直しの撲滅による環境負荷の削減（土木部）
    - 省エネ施工の推進（建築部）
  - (キ) 地域環境への貢献
    - 廃品回収等におけるトラックの貸し出し（建築部）
    - インターンシップの受入れ（総務部）
3. 環境方針の全従業員への周知、徹底

## 8 環境関連法規等の違反、訴訟等の報告

環境関連法規制について遵守状況をチェックしたところ、環境関連法規等への違反はありませんでした。また、環境法令上の住民等からの苦情、訴訟等についても問題ありませんでした。

## 9 代表者による全体の評価と見直し・指示

前回の評価では、総量対応と個別対応の着眼方法について触れました。幸い今回の報告はその着眼で纏められています。大事なことは纏め方の順守ではなく「纏めた内容を水平展開する」という切り口の自覚が出来ているかです。

実は「給油所の照明」や「AF アイドリング時間の着眼」は説得力を持つ事例として活かさなくてはなりません。因みに、夫々の取り組みを総量と比較してしまうと貢献度合いは微少ですが、事例として取り上げれば、次に説明する課題選定の仕方として活用出来ます。

「給油所の照明」は、そもそも意味をなしていないことを根こそぎ処分するという考え方です。「現状を超える効率化」という課題に比較すれば、活動自体の難しさもリスクも格段に低い。課題を探しただけで成果が出来ます。

「アイドリング時間」は、使用した燃料ではなくエンジンの稼働時間を測定してデータとすれば検証の要らない取組となります。こうした着眼点に頭を切り替えられるかが、運命の分かれ道といった感覚です。因みに、くどい人は「電気を消したり、エンジンを止めるとどれくらい効果が出るか確認してみます」といった、敢えてやるまでもない仕事を増やしてしまうものです。

組織構成に2：6：2の不変理論があるように、仕事にも「重要業務」と「あって損なし業務」と「無意味な仕事」があります。いくつかの重要業務で全体の8割を支えており、数多くの無意味な業務で2割の垂れ流しをしてしまうといった現象です。ところが数多くの無意味な業務は一つ二つ片付けても効果は殆ど現れません。それなのに、こうした業務を排除しようとして大きな力を使ってしまう。そもそも、力の要らない改善を探し出しただけで2割の効果は直ぐ出ます。

また、報告のもう一つのポイントであった固定要素と変動要素を分ければ有効なデータの集計が出来ます。併せて、職場の競争力は得意分野の有り様によって決まるので、再現性の高いものを優先し「結果の見える化」を図れば、より面白く取組めると思いますが。

令和2年12月1日

株式会社 伊藤組  
代表取締役 伊藤智仁

# 10 その他

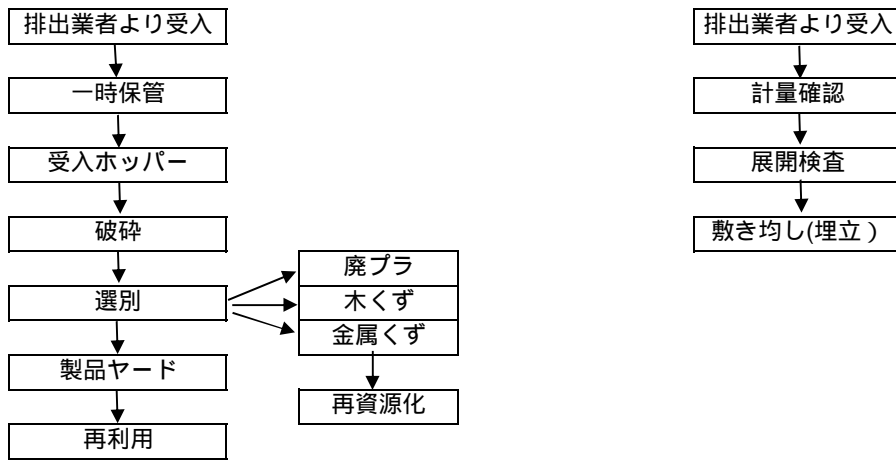
## 廃棄物処理組織概要

事業の規模	事業年度	55期	56期	57期	58期	
	売上高 (百万円)	4,724	4,540	5,274	3,797	
	収集運搬量 (t)	0	0	0	0	
	中間処分量 (t)	131,049.0	113,963.8	99,210.5	88,609.1	
	最終処分量 (t)	734.97	2,683.42	2,135.35	723.85	
	社員・従業員 (名)	123	122	124	124	
法人設立年月日	昭和38年2月1日	資本金	99.95	百万円		
許可の内容	許可名/許可番号	年月日		事業計画・事業の範囲 (事業区分、廃棄物の種類)		
	産業廃棄物処分量 00342011047	許可 有効	令和2年1月7日 令和5年11月26日	中間処理 (破碎処理) がれき類及び陶磁器くず  固定破碎 花巻市二枚橋第5地割473番地 14、15 固定破碎 岩手県滝沢市字後268番地  最終処分 (埋立処分) がれき類、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず 安定型最終 花巻市幸田第8地割401番1		
	産業廃棄物収集運搬業 00302011047	許可 有効	平成30年11月27日 令和5年11月26日	燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず、陶磁器くず、がれき類		
設備	設備名	能力・産廃の種類	台数	設備名	能力・産廃の種類	台数
	<b>中間処理施設</b>			<b>最終処分</b>		
	固定破碎	がれき類		埋立面積	安定型埋立	
	破碎機	100 t/h	1台	埋立容量	22,562m <sup>2</sup>	
	ホイルローダー	3.9m <sup>3</sup>	1台	残容量 (R2.3月時点)	77,200m <sup>3</sup>	
	油圧ショベル	0.7m <sup>3</sup>	1台	ホイルローダー	20,681.5m <sup>3</sup>	1台
				<b>運搬車両</b>		
	固定破碎	がれき類		キャブオーバー	4 t車	3台
	破碎機	86 t/h	1台	キャブオーバー	3 t車	1台
	ホイルローダー	2.1m <sup>3</sup>	1台	キャブオーバー	2 t車	2台
	油圧ショベル	0.7m <sup>3</sup>	1台	清掃車 (吸引式)	10 t車	1台
				清掃車 (強力吸引式)	4 t車	1台

処理方法・処理工程

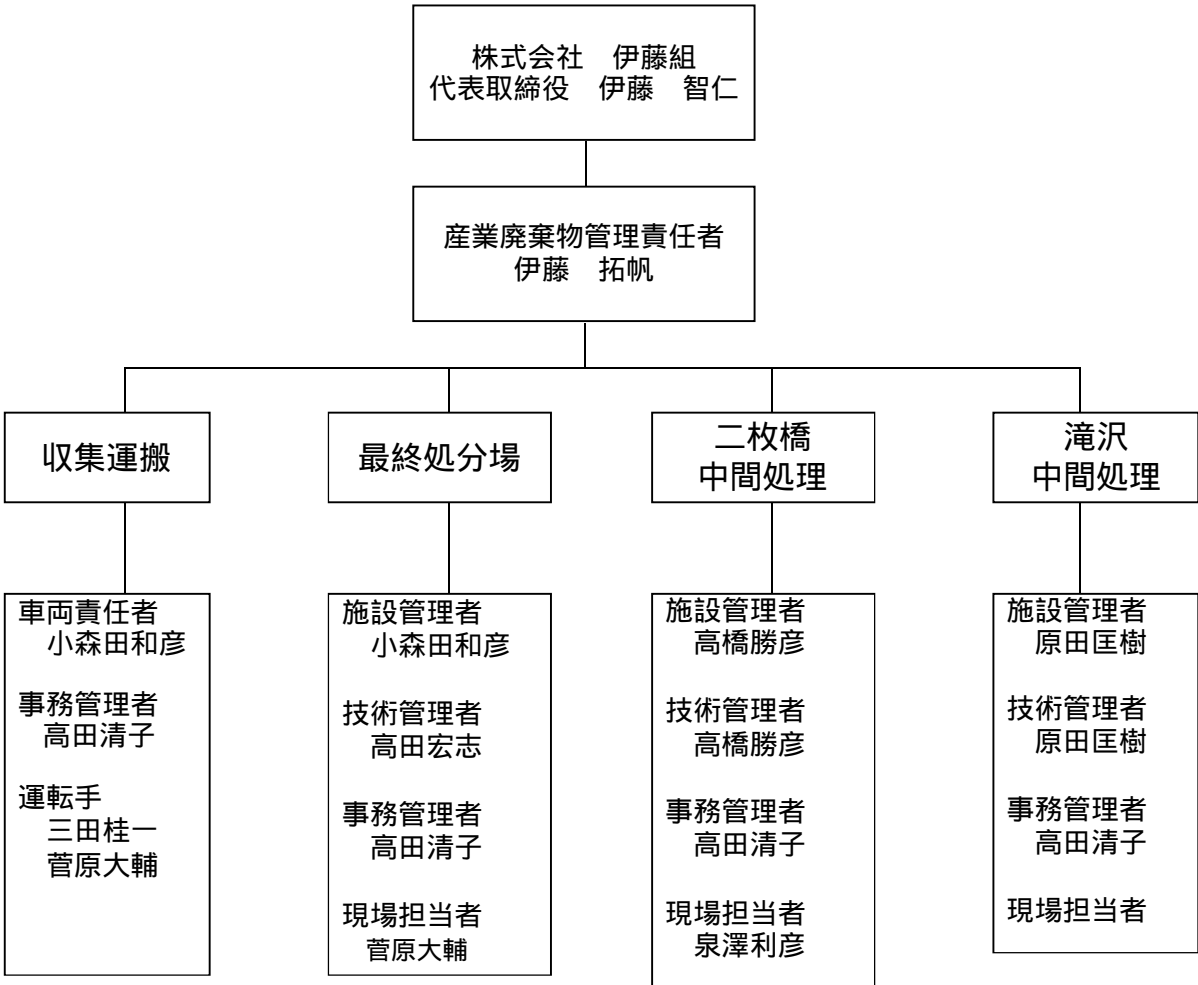
中間処理施設

最終処分（安定型埋立）



廃棄物 処理 料金	処理物	標準価格	単位	受入基準・処理方法
	アスコン塊	1,800	t	50×50角、破碎後再利用
	コンクリート塊（無筋）	1,800	t	50×50角、破碎後再利用
	コンクリート塊（有筋）	2,300	t	50×50角、破碎後再利用
	二次製品	2,800	t	破碎後再利用
	がれき類（安定型最終処分）	12,000	t	埋立て

# 58期 産業廃棄物処理 組織図



## 株式会社伊藤組 産業廃棄物業者 情報公開ウェブサイト概要

### マネジメント

- 9 - 2 会社情報
- 9 - 3 事業計画の概要、最終処分、中間処理、収集運搬許可証
- 9 - 4 財務諸表
- 10 - 3 処理施設の概要
- 2 - 1 産業廃棄物処理 組織図
- 6 - 2 環境保全技術に関する資格者及び講習修了者一覧表
- 6 - 3 関係する講習会受講一覧表及び、有資格者、講習修了者一覧表
- 9 - 5 処理料金表

### 幸田最終処分場

- 6 - 1 実績表
- 6 - 2 施設の概要
- 6 - 3 埋立処理工程
- 6 - 4 施設維持管理記録

### 中間処理場（二枚橋・滝沢）

- 6 - 1 実績表
- 6 - 2 施設の概要
- 6 - 3 破碎処理工程
- 6 - 4 施設維持管理記録

### 収集運搬

- 4 - 1 運搬車両一覧表
- 4 - 2 実績表